



1986年兵庫県生まれ。

2010年 多摩美術大学美術学部テキスタイルデザイン専攻卒業，
2012年多摩美術大学大学院テキスタイルデザイン研究領域修了。
現在は、群馬県にて制作活動中。

受賞歴に 2011年 前橋アートコンペライヴグランプリ

2014年 2016年 グッドデザインぐんま奨励賞受賞



主な展覧会歴に、2018年 彼女たちのまなざし（アーツ前橋，群馬）

2017年 群馬のシルクアーティスト2人展（日本絹の里，群馬），群馬の美術 2017（群馬県立近代美術館，群馬）

2016年 買える！アート展（越後妻有里山現代美術館キナーレ，新潟）

2015年 中之条ビエンナーレ（旧廣盛酒造，群馬）

2014年 Upperud Cabinet of Curiosity（Dalslands konstmuseum，スウェーデン）など

寺村サチコは、染織という技法を駆使して、感情や生命とは何かを問い続ける作家である。

あらゆる関係性と時間の中から感情を抽出し、形を与える。

作家自ら「キラキラ」，「ドロドロ」と語る作品には、卑近なまでのリアリティと女性特有のしなやかさが同居している。

形はどれも異様だ。

アンバランスな身体，腫れた表皮，不揃いな組織，しかし一方で、ある種の強度も備えている。

色鮮やかに増殖する造形物は、そのまま「花」や「ファッション」という女性のアナロジーともつながるが、そこに矛盾や躊躇はない。

また、宙を舞う存在の軽さやしなやかさは、物質的剛性や信頼性が失われるほど、逆説的に存在が際立つ。

偶像を禁じたがゆえ、一神教の神はもっとも「存在」していたという原理に近いといえる。

嫉妬や憎悪でゆがんだ心も、現実との接点を失ってなお命をつなごうとする、

その強烈な生命力に寺村は魅了されたのかもしれない。

染織によって、寺村は布に生命を宿す。

しかし、染料は布の種類により染まるものと染まらないものがあり、常に試行錯誤が必要だ。

「ドロドロ」と壊れかけた心も、愛情と反目を繰り返し、いつか需要されることを待ち望んでいるのではないだろうか。